



# 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について

平成30年11月  
江別市教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	17	987
中学校	第3学年	8	986
合計		25	1,973

### 3 調査の内容

(1) 教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校～国語A・B、算数A・B、理科</li> <li>・中学校～国語A・B、数学A・B、理科</li> <li>・国語、算数・数学は、「主として知識に関する問題」Aと「主として活用に関する問題」Bを出題</li> <li>・理科は(A)と(B)を一体的に出題</li> </ul>
(2) 質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等</li> <li>・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等</li> </ul>

### 4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

### 5 調査期日

平成30年4月17日(火)

### 6 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

## II 結果の概要

### 1 教科に関する結果の概要

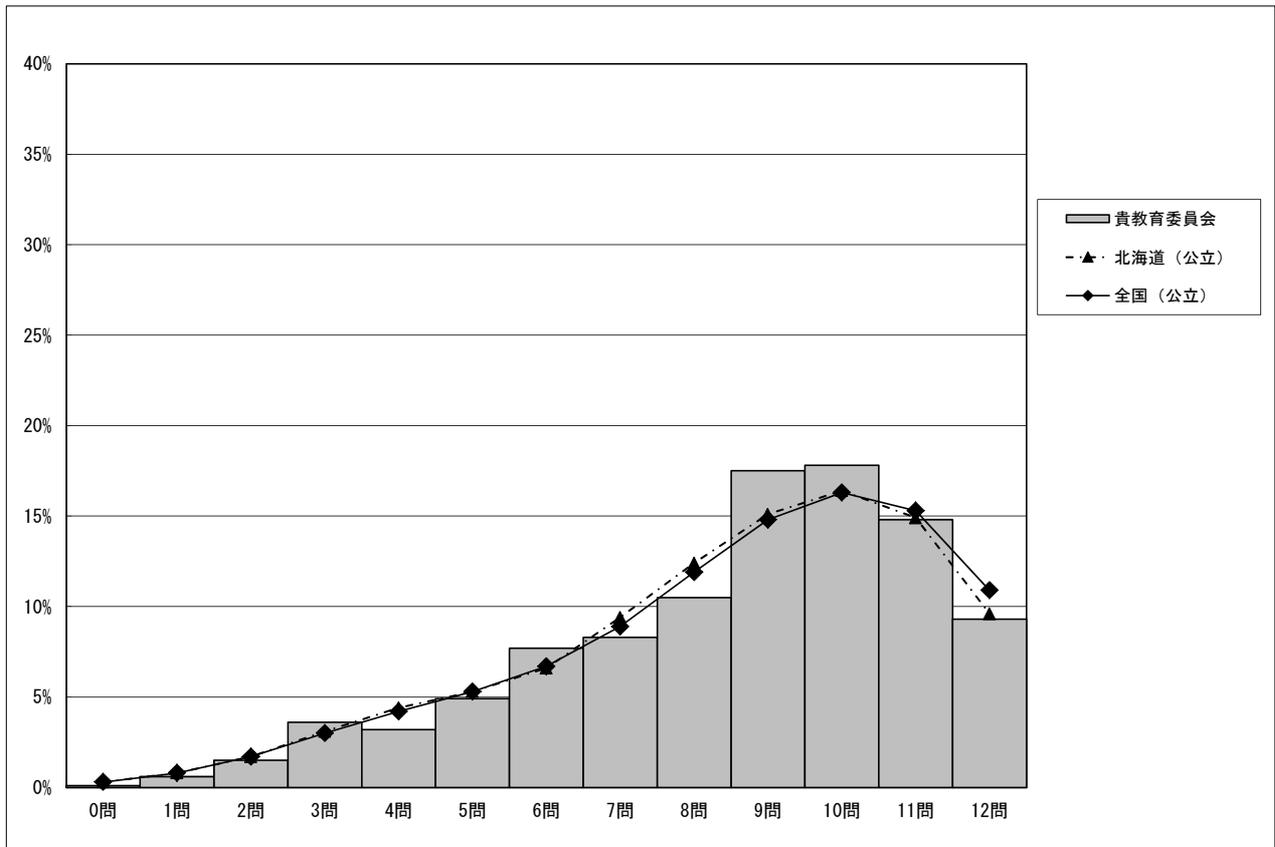
(1) 小学校 平均正答率は、北海道との比較では、国語A、算数Aの2教科で北海道を上回り、国語B、算数B、理科の3教科は、北海道と同様です。また、全国との比較では、国語Aが全国を上回り、国語B、算数A・B、理科で全国を下回っています。
(2) 中学校 平均正答率は、北海道との比較では、すべての教科で北海道を上回っています。また、全国との比較でも、すべての教科で全国を上回っています。

### 2 質問紙調査に関する結果の概要

○ 放課後に、「家で勉強や読書をしている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。また、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりしている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。
○ 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
○ パソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は、全国平均を大きく上回り、ICT(情報通信技術)を活用した授業が積極的に行われています。

### Ⅲ 各教科の結果

#### 1 小学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語A	平均正答数	平均正答率(%)
江別市	8.5/12	71.0
北海道	8.4/12	70.0
全国	8.5/12	70.7

領域	設問数	平均正答率(%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	1	90.4	90.3	90.8
書く	1	70.6	72.9	73.8
読む	2	73.7	72.5	74.0
伝統的な言語文化と国語の特質	8	67.9	66.6	67.0

複数の領域にまたがる設問もあります。

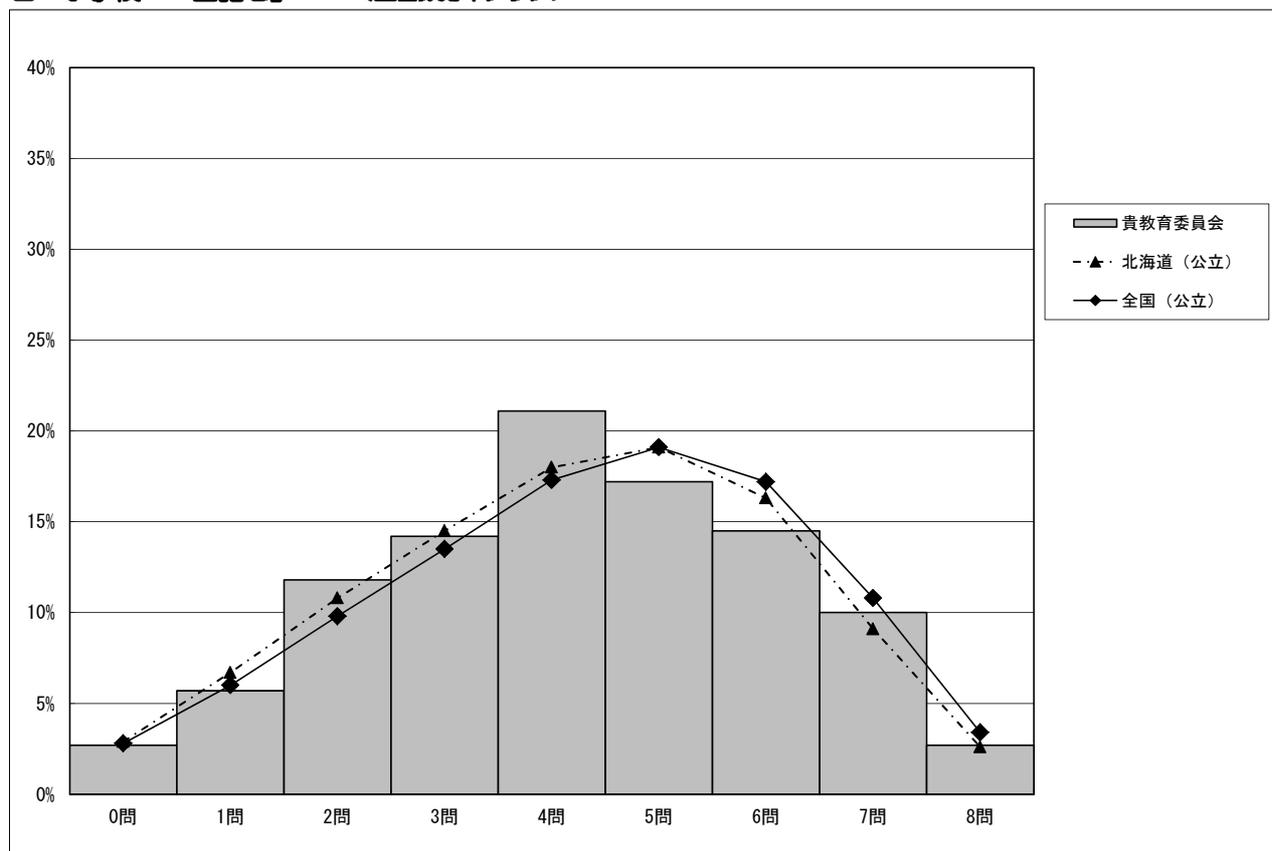
#### <結果>

- 平均正答率は71.0%で、北海道を1.0ポイント、全国を0.3ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.9ポイント全国を上回り、「話すこと・聞くこと」が0.4ポイント、「書くこと」が3.2ポイント、「読むこと」が1.1ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成を考える」  
構成を工夫して物語を創作するためには、読むことの指導との関連を図り、複数の物語を読み、それぞれの作品の構成とその効果を分析し、分類しながら表にまとめるなど、学習活動を工夫する必要があります。
- 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」  
主語と述語との関係については、表現するときだけでなく、文章を読むときに強く意識できるように指導し、書くことの学習とも関連を図りながら、自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返す習慣を付けることが大切です。

## 2 小学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語B	平均正答数	平均正答率(%)
江別市	4.2 / 8	53.0
北海道	4.2 / 8	53.0
全国	4.4 / 8	54.7

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	61.9	62.0	64.6
書く	5	43.4	43.4	45.6
読む	2	50.3	49.2	50.8
伝統的な言語文化と国語の特質	0	—	—	—

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結果>

- 平均正答率は53.0%で、北海道と同様で、全国を1.7ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が全国を2.7ポイント、「書くこと」が2.2ポイント、「読むこと」が0.5ポイント全国を下回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

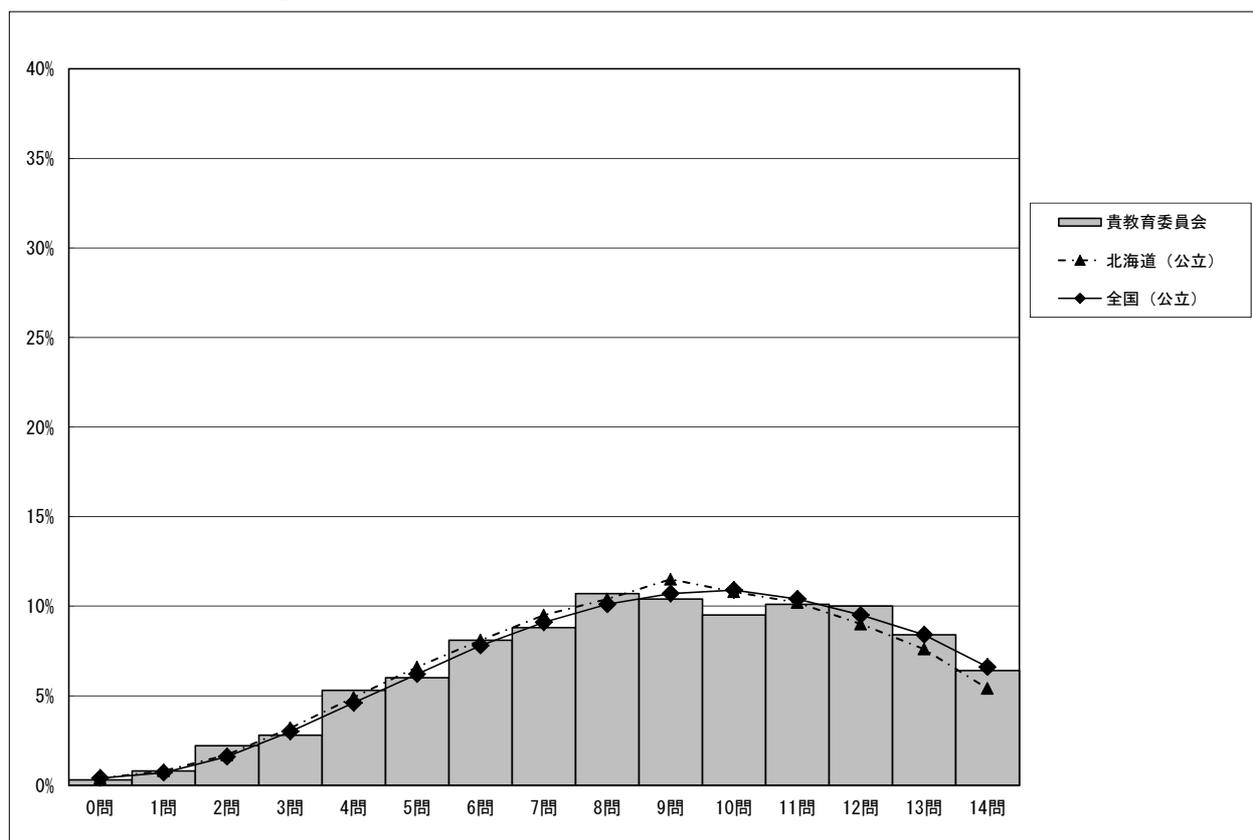
#### ■ 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」

自分の考えをまとめる際には、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理し、相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げ、自分の考えを筋道を立ててまとめることができるように指導を工夫することが重要です。

#### ■ 「推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える」

本問では、給食の献立を取り上げ、各家庭でメニューの一つに加えてもらうために推薦する文章を書く場面を設定しています。推薦文を書くことの他に、スピーチで推薦する、本を読んで推薦するなどの言語活動との関連を図る指導が重要です。

### 3 小学校 「算数A」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

算数A	平均正答数	平均正答率(%)
江別市	8.8 / 14	63.0
北海道	8.7 / 14	62.0
全国	8.9 / 14	63.5

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と計算	5	61.6	60.0	62.3
量と測定	4	70.5	71.7	72.7
図形	3	56.3	56.1	56.9
数量関係	5	59.1	58.2	60.1

複数の領域にまたがる設問もあります。

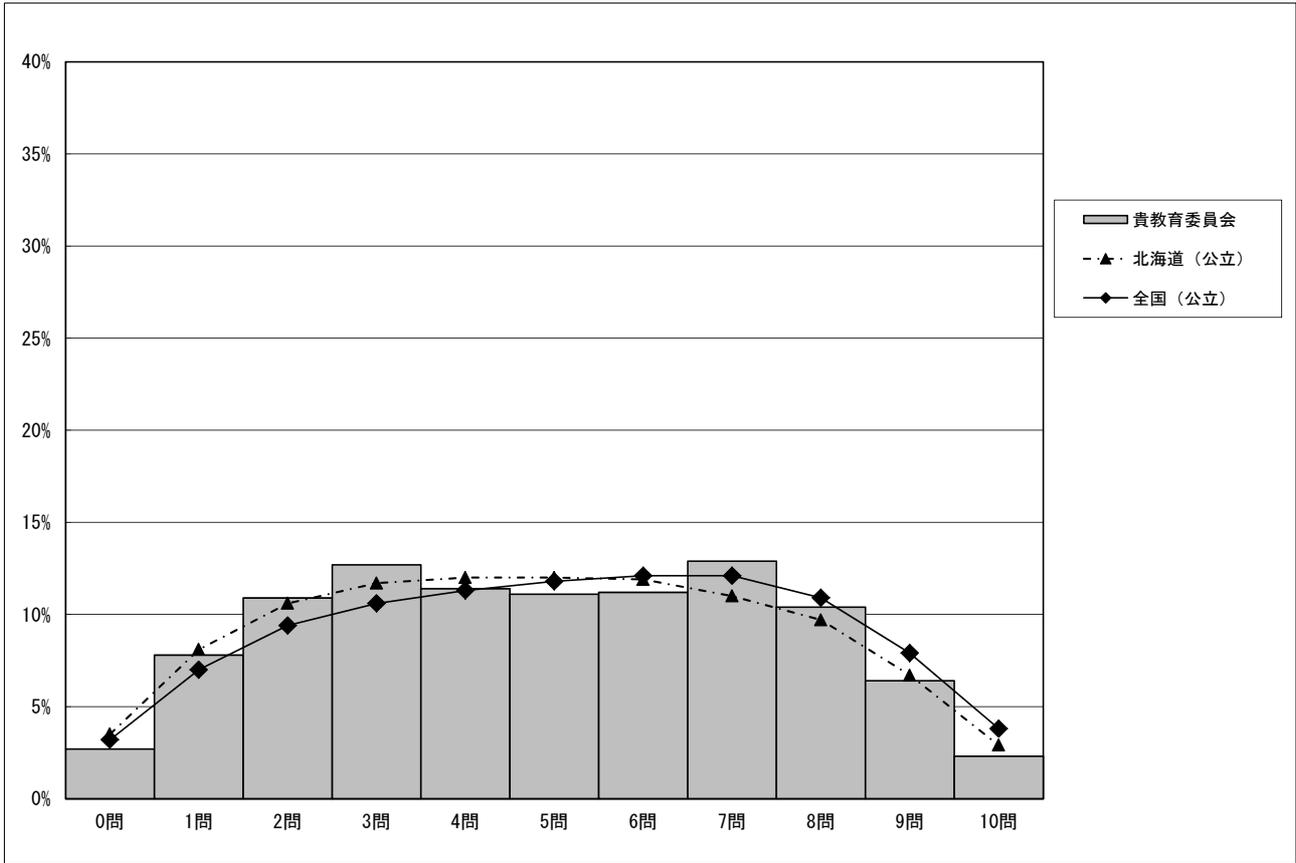
#### <結果>

- 平均正答率は63.0%で、北海道を1.0ポイント上回り、全国を0.5ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と計算」が0.7ポイント、「量と測定」が2.2ポイント、「図形」が0.6ポイント「数量関係」が1.0ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「180° や360° を基に分度器を用いて180° よりも大きい角の大きさを求めることができる」  
180° よりも大きい角の大きさの測定においては、180° を超えた部分の角の大きさや 360° に足りない部分の角の大きさについて測定することができるようにすることが大切です。角の大きさの測定の際には、分度器にある二つの0° のうち、どちらを基準として角の大きさを測定すればよいのかを判断することができるようにすることが大切です。
- 「直径の長さと同周の長さの関係について理解している」  
作業的・体験的な活動を通して、直径の長さと同周の長さの関係について理解できるようにすることが大切です。指導に当たっては、例えば、幾つかの円について、実際に直径の長さと同周の長さを測定する活動が考えられます。その際、「直径の長さが2倍になるとき、同周の長さも2倍になる」ことを確認し、同周の長さと同直径の長さの関係について理解できるようにすることが大切です。

#### 4 小学校 「算数B」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

算数B	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	4.9/10	49.0
北海道	4.9/10	49.0
全国	5.1/10	51.5

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と計算	6	54.5	54.6	58.4
量と測定	4	49.6	49.3	52.4
図形	2	60.8	58.8	59.9
数量関係	5	43.0	42.8	45.1

複数の領域にまたがる設問もあります。

#### <結果>

- 平均正答率は49.0%で、北海道と同様で、全国を2.5ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「図形」が0.9ポイント全国を上回り、「数と計算」が3.9ポイント、「量と測定」が2.8ポイント、「数量関係」が2.1ポイント全国を下回っています。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

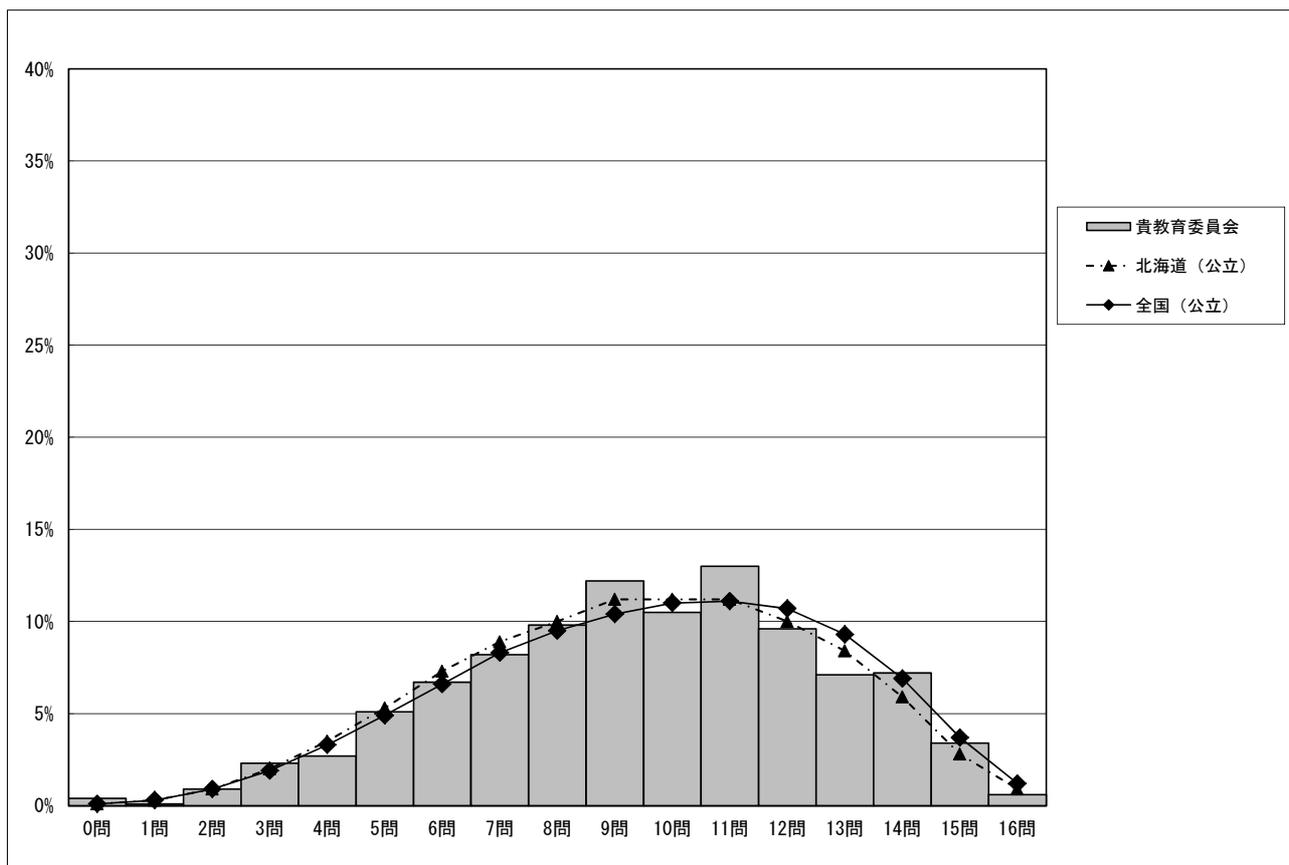
- 「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる」

算数の学習では、児童自らが数量の関係を見だして考察し、さらに、その数量の関係がほかの場合でも成り立つことを確かめて、確かめた数量の関係を的確に表現することができるようにすることが大切です。

- 「折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連づけ根拠を明確にして記述できる」

日常生活の問題の解決のために、複数の情報を解釈し関連づけて考察し、判断の理由について根拠を明確にして説明することができるようにすることが大切です。複数の情報から、枚数、本数、個数などの数量を解釈し関連づけて論理的に考察する活動の工夫が重要です。

## 5 小学校「理科」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

理 科	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	9.5/16	59.0
北海道	9.4/16	59.0
全 国	9.6/16	60.3

領 域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全 国
物 質	4	59.8	58.2	59.8
エネルギー	4	51.5	51.4	53.1
生 命	4	72.2	73.5	73.6
地 球	6	48.7	47.3	49.5

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結 果>

- 平均正答率は59.0%で、北海道と同様で、全国を1.3イント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「物質」が全国と同様で、「エネルギー」が1.6ポイント、「生命」が1.4ポイント、「地球」が0.8ポイント全国を下回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

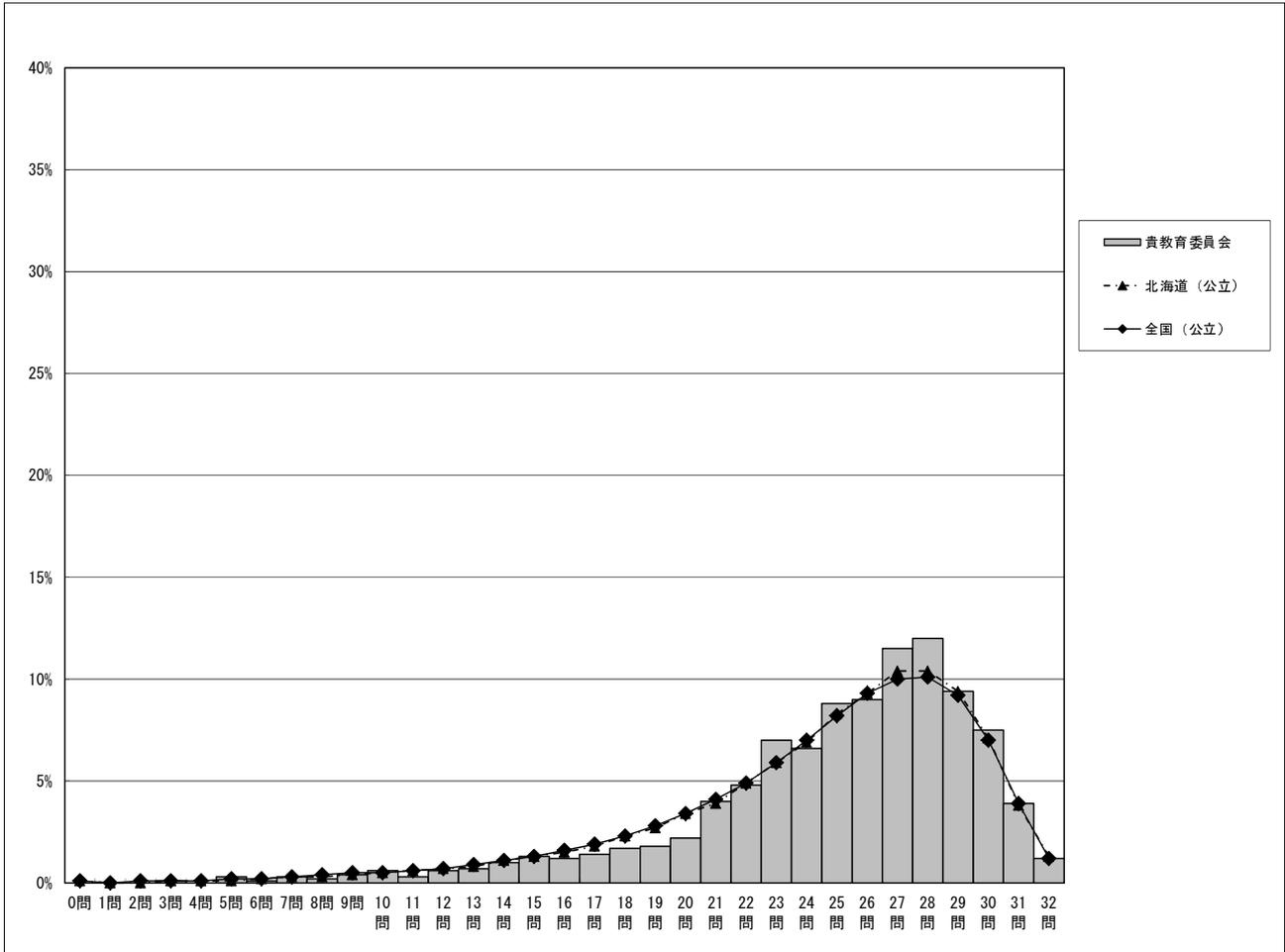
#### ■ 「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」

人がどのように体を動かしているのかということを表示する手段として、実際に腕が曲がる仕組みを筋肉の様子と関連づけて考え、模型を用いて説明する等の学習活動の工夫が必要です。

#### ■ 「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる」

実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら説明できるようにすることが大切です。自分の予想にとらわれずに事実と解釈の両方を表現することで、よりの確な説明になることを捉えられるように指導することが重要です。

## 6 中学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数, 縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語A	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	24.9 / 32	78.0
北海道	24.5 / 32	77.0
全国	24.3 / 32	76.1

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	79.2	76.1	75.2
書く	4	75.5	74.4	73.9
読む	4	76.7	76.4	76.7
伝統的な言語文化と国語の特質	21	78.1	77.1	76.5

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結果>

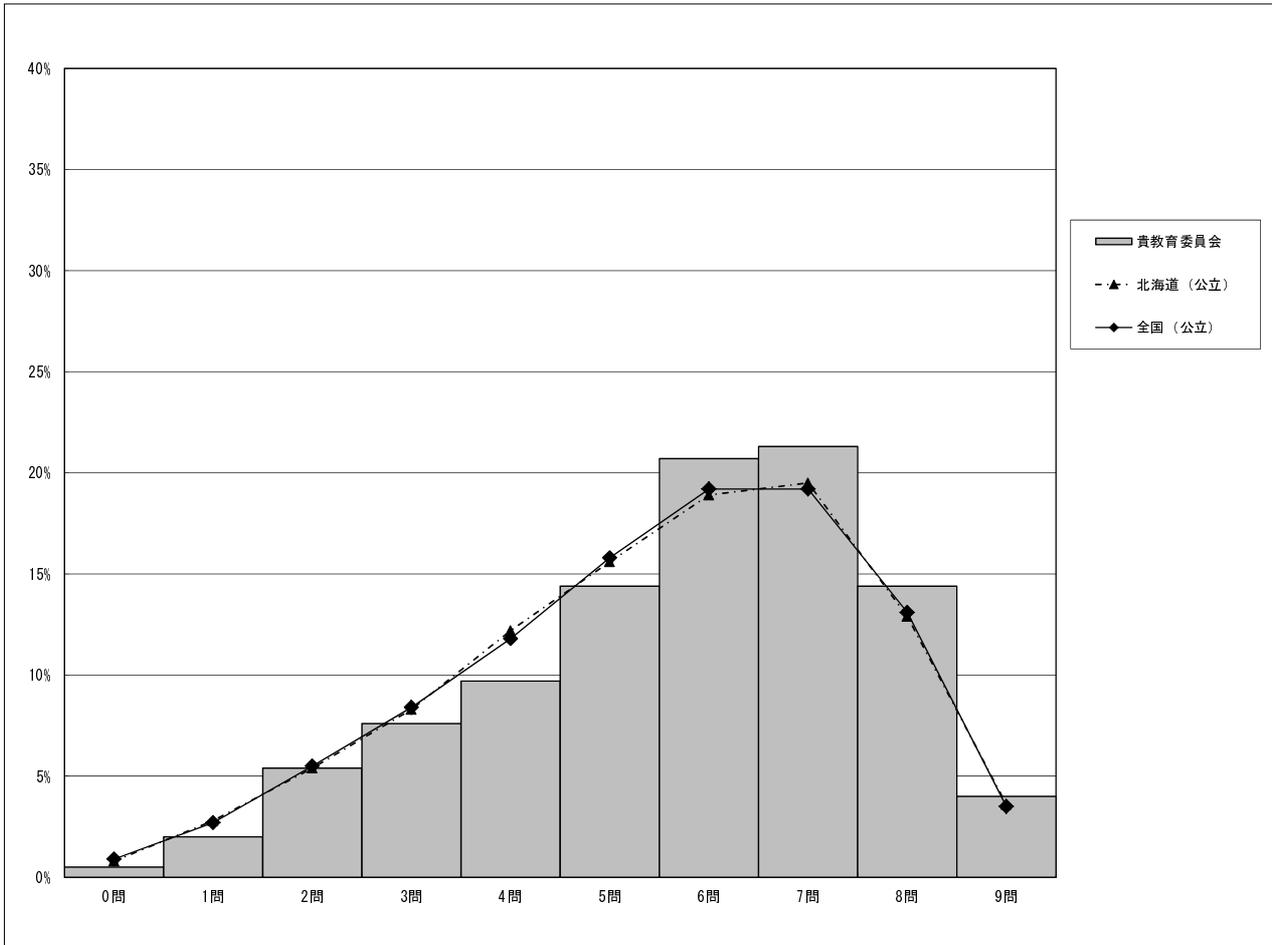
- 平均正答率は78.0%で、北海道を1.0ポイント、全国を1.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「読むこと」が全国と同様で、「話すこと・聞くこと」が4.0ポイント、「書くこと」が1.6ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が1.6ポイント全国を上回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

#### ■ 「段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる」

説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開に即して情報を整理し、内容を捉えるように指導することが大切です。図表が文章のどの部分と関連しているかを確認し、図表の役割について考えたり、文章の内容を捉えるためにどのような図表が必要かを考える学習活動の工夫が必要です。

7 中学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

国語B	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	5.7/9	63.0
北海道	5.5/9	61.0
全国	5.5/9	61.2

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	79.3	77.3	76.6
書く	2	32.3	30.4	31.3
読む	6	55.4	53.1	53.5
伝統的な言語文化と国語の特質	1	47.1	46.6	49.2

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

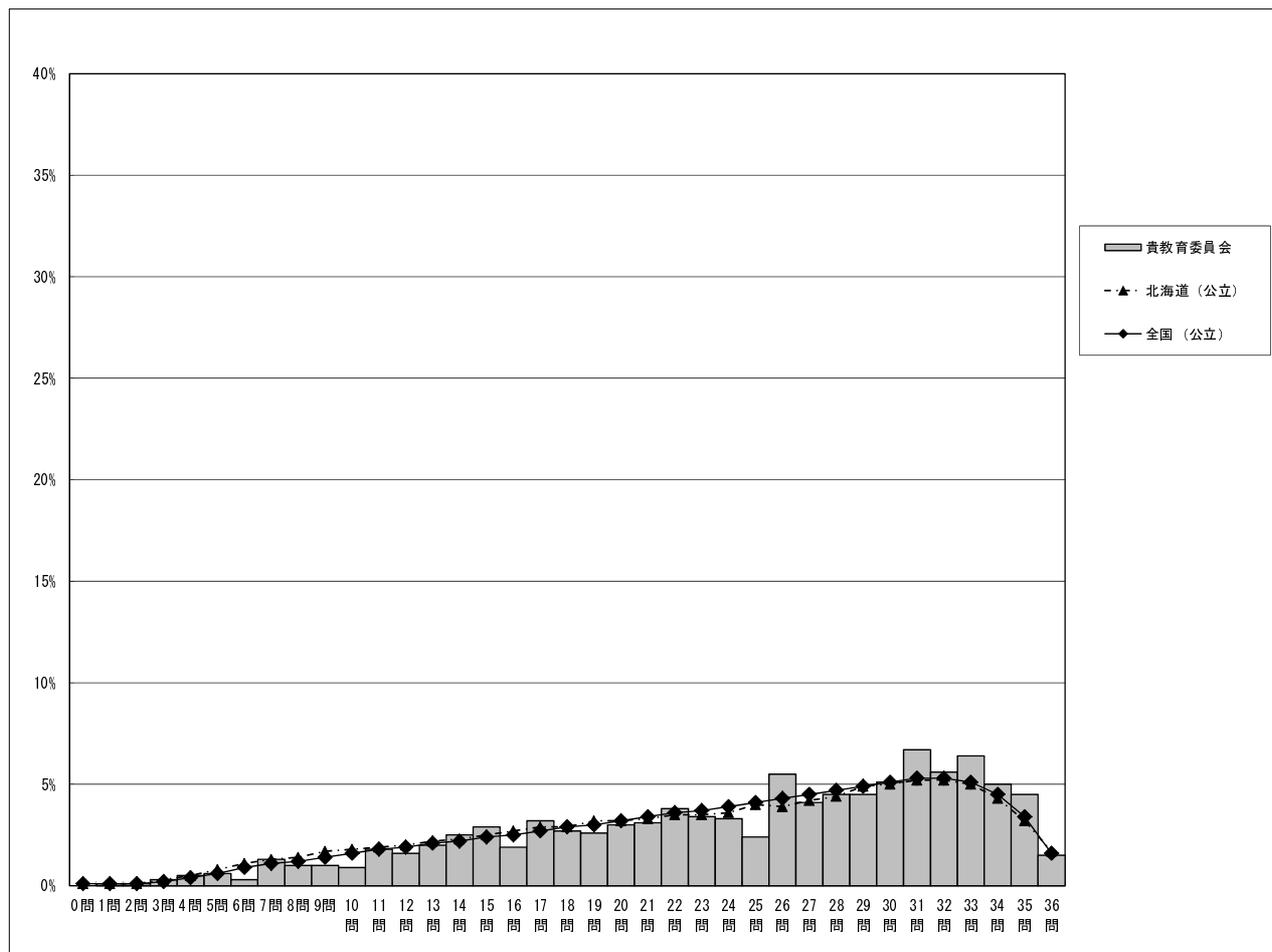
- 平均正答率は63.0%で、北海道を2.0ポイント、全国を1.8ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が2.7ポイント、「書くこと」が1.0ポイント、「読むこと」が1.9ポイント全国を上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が2.1ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■ 「相手に的確に伝わるように、あらすじを書く」

作品のあらすじをまとめる際には、それぞれの場面の内容や場面相互の関連を捉え、話の展開を踏まえるように指導することが大切です。自分の選んだ作品のあらすじをまとめ、互いに伝え合い、内容を適切に表現することができているかどうかを確認し合うなどの学習活動の工夫が必要です。

## 8 中学校 「数学A」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

数学A	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	24.4/36	68.0
北海道	23.4/36	65.0
全国	23.8/36	66.1

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と式	12	71.4	68.7	71.1
図形	12	71.6	68.4	69.1
関数	8	59.4	55.3	55.5
資料の活用	4	62.0	62.3	63.5

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結果>

- 平均正答率は68.0%で、北海道を3.0ポイント、全国を1.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と式」が0.3ポイント、「図形」が2.5ポイント、「関数」が3.9ポイント全国を上回り、「資料の活用」が1.5ポイント全国を下回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

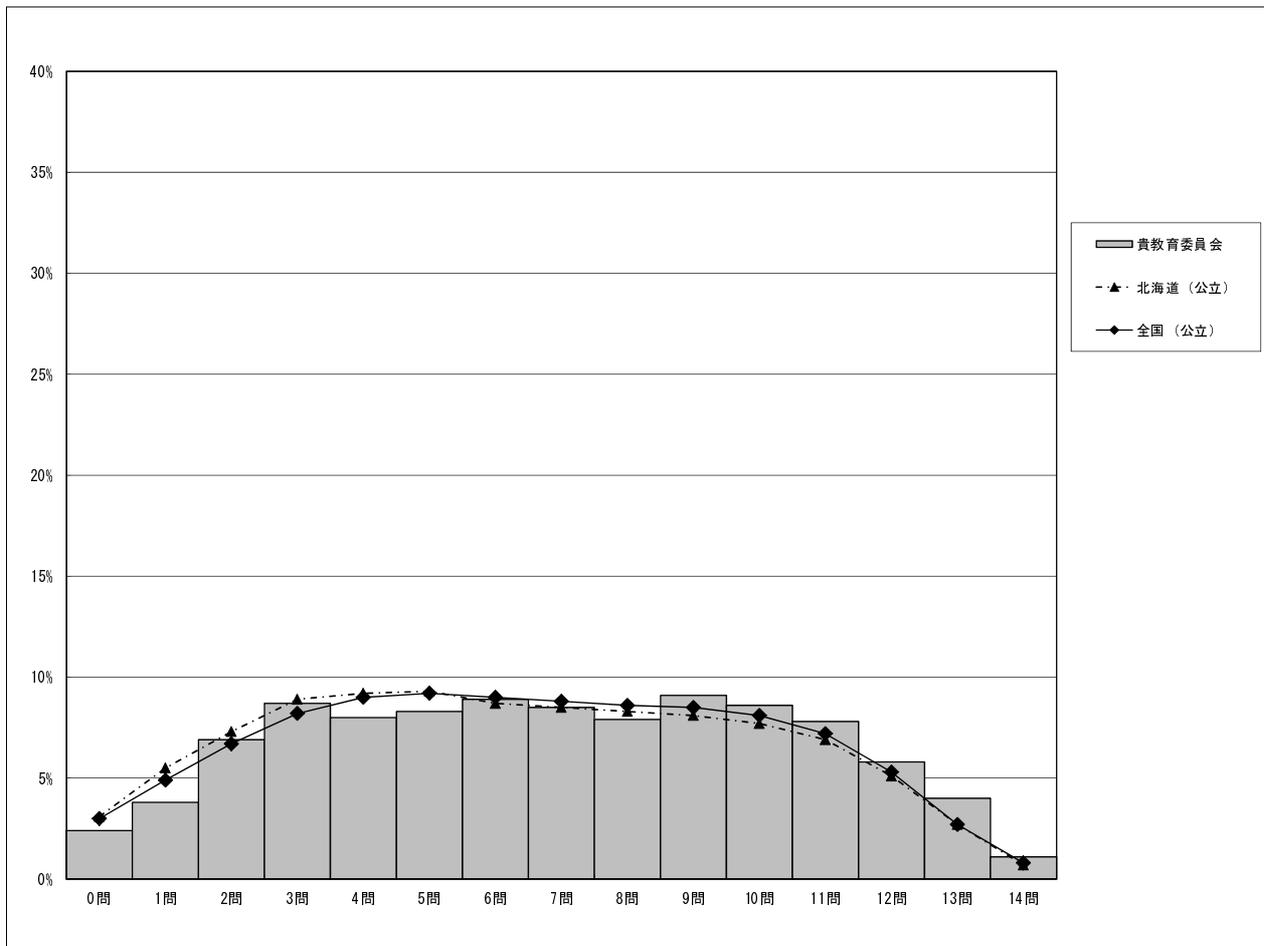
#### ■ 「絶対値の意味を理解している」

正の数と負の数の範囲で、絶対値の意味を理解できるようにするために、数直線上における原点からの距離が絶対値であることを理解できるように指導することが大切です。

#### ■ 「与えられた資料から中央値を求めることができる」

代表値の必要性和意味を理解し、代表値を求めることができるようにするためには、目的に応じてデータを収集して整理し、資料の代表値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動が必要です。

9 中学校 「数学B」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

数学B	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	6.9/14	49.0
北海道	6.4/14	46.0
全国	6.6/14	46.9

領域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全国
数と式	4	52.2	49.9	51.4
図形	3	48.3	45.1	46.7
関数	3	55.0	52.0	52.8
資料の活用	4	41.6	37.4	38.0

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

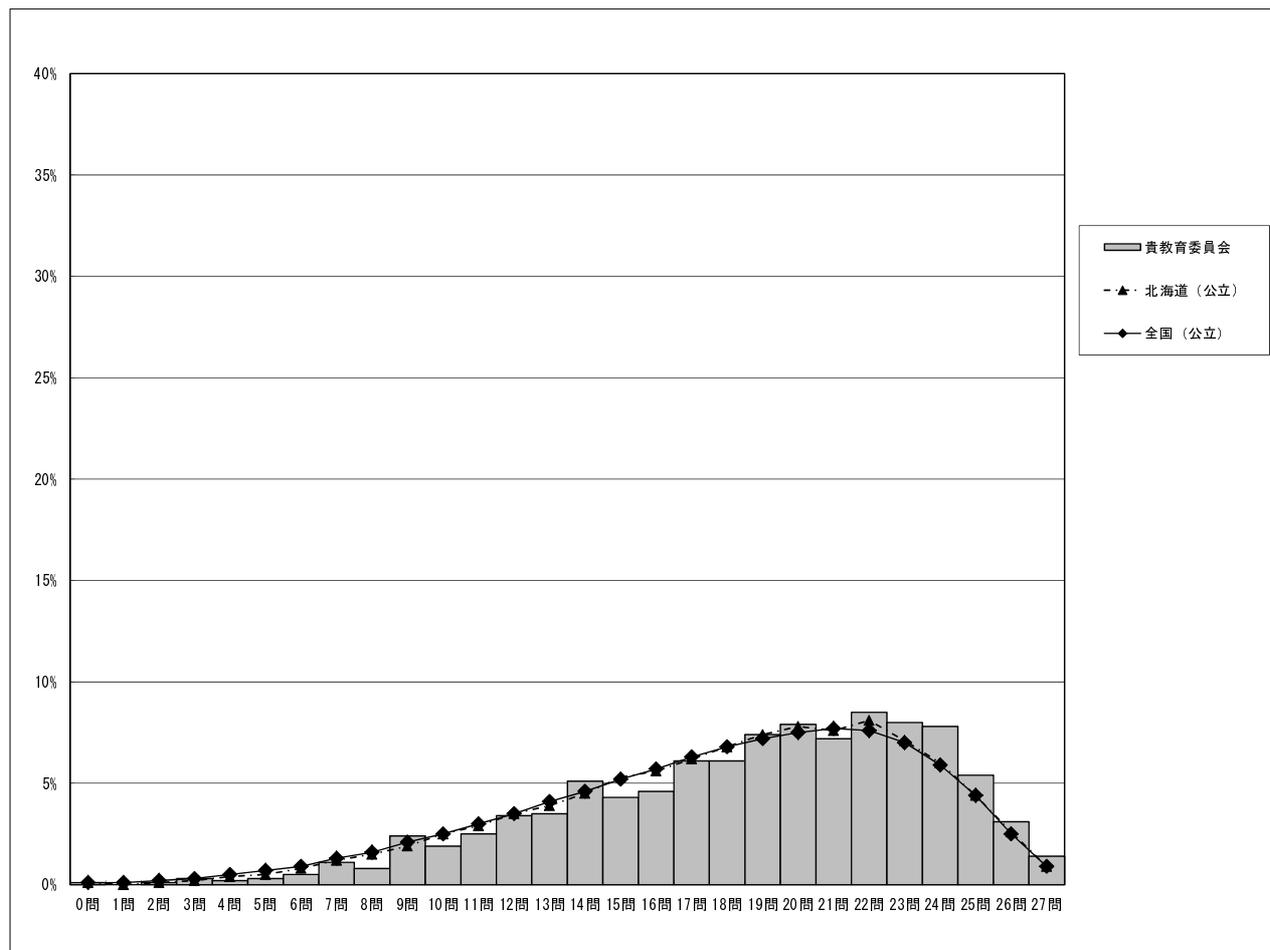
- 平均正答率は49.0%で、北海道を3.0ポイント、全国を2.1ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と式」が0.8ポイント、「図形」が1.6ポイント、「関数」が2.2ポイント、「資料の活用」が3.6ポイント全国を上回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる」

生徒自らが3つの計算の順番をどのように入れ替えるかを決め、決めた順番で計算した計算結果について成り立つ事柄を考察した過程を振り返る活動を取り入れ、問題解決の過程を振り返り、成り立つ事柄を数学的に表現できるように指導することが重要です。

## 10 中学校 「理科」 <正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

理 科	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市	18.6/27	69.0
北海道	18.0/27	67.0
全 国	17.9/27	66.1

領 域	設問数	平均正答率 (%)		
		江別市	北海道	全 国
物 理	7	77.3	74.6	74.4
化 学	8	67.4	66.3	65.0
生 物	6	77.4	73.6	72.5
地 学	7	58.3	57.6	57.8

複数の領域にまたがる設問もあります。

### <結 果>

- 平均正答率は69.0%で、北海道を2.0ポイント、全国を2.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「物理」が2.9ポイント、「化学」が2.4ポイント、「生物」が4.9ポイント、「地学」が0.5ポイント全国を上回っています。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる」

特定の質量パーセント濃度の水溶液が必要な状況で、生徒が水溶液の質量から溶質と溶媒の質量を計算し、実際に水溶液を作る学習場面の設定が必要です。身近なしょうゆや即席みそ汁などの食品を取り上げ、含まれる食塩の質量パーセント濃度を求める学習活動の工夫が必要です。

- 「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる」

シミュレーションの結果から台風の進路に影響を与える条件を考察する際、はじめに個人で考え、次に個人の考察をグループで実験の条件や結果に照らして適切であるかという視点から検討して改善する指導が大切です。

## IV 質問紙調査の結果

### 1 「児童・生徒質問紙」

#### (1) 家庭の生活

##### ① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

- ・小学校6年生 93.2%で、昨年度より3.2ポイント低く、全国平均より1.3ポイント低い。
- ・中学校3年生 91.3%で、昨年度より1.2ポイント低く、全国平均より0.6ポイント低い。

##### ② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

- ・小学校6年生 77.9%で、昨年度より3.3ポイント高く、全国平均より0.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 69.1%で、昨年度より3.6ポイント低く、全国平均より5.1ポイント低い。

朝食摂取について、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度を下回り、全国平均を下回っています。就寝時刻について、小学校6年生は全国平均を上回り、中学校3年生は全国平均を下回っています。子どもの生活リズムの向上のため、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

#### (2) 自己肯定感

##### ① 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

- ・小学校6年生 85.0%で、昨年度より8.4ポイント高く、全国平均より1.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 77.6%で、昨年度より13.4ポイント高く、全国平均より1.2ポイント低い。

##### ② 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

- ・小学校6年生 85.2%で、昨年度より0.2ポイント低く、全国平均より0.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 69.7%で、昨年度より3.4ポイント高く、全国平均より2.7ポイント低い。

##### ③ 先生は、自分のよいところを「認めてくれている」、「どちらかといえば、認めてくれている」

- ・小学校6年生 82.8%で、昨年度より4.4ポイント低く、全国平均より2.5ポイント低い。
- ・中学校3年生 78.5%で、昨年度より2.9ポイント低く、全国平均より3.7ポイント低い。

自己肯定感、将来の目標等について、小学校6年生は全国平均を上回り、中学校3年生は全国平均を下回っています。先生はよいところを認めてくれていると思う割合については、小・中学生ともに全国平均を下回っています。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見付けて伝えたり、集団における所属感や成就感を高める取組を進めていますが、自己肯定感や自己有用感の醸成は継続して取り組むことが必要です。

#### (3) 「放課後に何をして過ごすことが多いか」

##### ① 家でテレビやビデオ・DVDを見たりゲームやインターネットをしている

- ・小学校6年生 86.6%で、全国平均より5.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 85.4%で、全国平均より8.1ポイント高い。

##### ② 家で勉強や読書をしている

- ・小学校6年生 68.0%で、全国平均より3.9ポイント高い。
- ・中学校3年生 50.6%で、全国平均より8.4ポイント高い。

放課後に、「家で勉強や読書をしている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。また、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりしている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。テレビ等を見たりゲームを行ったりする時間帯や時間についての家庭内でのルール作りなど、家庭と一体となって学習時間の確保や望ましい生活習慣を確立する取組を進める必要があります。

#### (4) 学校の授業以外の勉強

##### ① 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 62.5%で、昨年度より0.9ポイント低く、全国平均より3.7ポイント低い。
- ・中学校3年生 70.0%で、昨年度より6.2ポイント高く、全国平均より0.6ポイント低い。

##### ② 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

- ・小学校6年生 74.3%で、昨年度より4.7ポイント高く、全国平均より6.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 56.2%で、昨年度より4.3ポイント高く、全国平均より4.1ポイント高い。

### ③ 週末に家で勉強や読書をしている

- ・小学校6年生 65.8%で、全国平均より7.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 47.6%で、全国平均より6.6ポイント高い。

家庭学習について、平日に学校の授業以外に1時間以上勉強する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っています。週末に家で勉強や読書をしている割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。家で自分で計画を立てて勉強している割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。家庭学習は学習内容を確実に身に付けるために必要であり、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め継続的に取り組むようにする必要があります。

## (5) 理科の学習

### ① 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の「計画を立てている」、「どちらかといえばしている」

- ・小学校6年生 80.0%で、全国平均より4.8ポイント高い。
- ・中学校3年生 69.5%で、全国平均より11.0ポイント高い。

理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の「計画を立てている」割合が、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにするために、自らの予想や仮説を基に実験計画を立案し、実験を行う前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通すことが大切です。

## (6) 社会に対する興味・関心

### ① 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」、「どちらかといえば、関心がある」

- ・小学校6年生 65.2%で、昨年度より6.4ポイント高く、全国平均より1.4ポイント高い。
- ・中学校3年生 59.9%で、昨年度より4.9ポイント高く、全国平均より0.6ポイント高い。

### ② 新聞を「ほぼ毎日読む」

- ・小学校6年生 6.1%で、昨年度より1.2ポイント低く、全国平均より1.3ポイント低い。
- ・中学校3年生 6.3%で、昨年度より0.5ポイント低く、全国平均より1.4ポイント高い。

社会に対する興味・関心について、小学校6年生、中学校3年生ともに、昨年度を上回り、全国平均を上回っています。新聞をほぼ毎日読むについては、小学校6年生は全国平均を下回っていますが、中学校3年生は全国平均を上回っています。社会の出来事に興味をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点からも、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

## (7) 思いやり

### ① 人の役に立つ人間になりたい「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

- ・小学校6年生 96.5%で、昨年度より2.8ポイント高く、全国平均より1.3ポイント高い。
- ・中学校3年生 95.3%で、昨年度より3.5ポイント高く、全国平均より0.4ポイント高い。

### ② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

- ・小学校6年生 89.9%で、昨年度より4.7ポイント高く、全国平均より4.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 84.3%で、昨年度より11.8ポイント高く、全国平均より3.6ポイント高い。

「人の役に立ちたい」、「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、学校の教育活動全体で人への思いやりや規範意識をはぐくむ道徳教育の推進を継続していくことが必要です。

## (8) 読書習慣

### ① 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

- ・小学校6年生 39.8%で、昨年度より5.5ポイント高く、全国平均より1.3ポイント低い。
- ・中学校3年生 35.3%で、昨年度より4.3ポイント高く、全国平均より4.4ポイント高い。

平日に30分以上読書する割合は、小学校6年生は、全国平均を下回り、中学校3年生は上回っています。各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書館の整備など、読書環境の充実が図られ、読書の習慣づくりが推進されています。

## (9) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取り組み

### ① 授業で課題に対して、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

- ・小学校6年生 78.4%で、昨年度より4.1ポイント高く、全国平均より1.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 74.7%で、昨年度より1.1ポイント高く、全国平均より0.9ポイント高い。

### ② 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

- ・小学校6年生 61.6%で、昨年度より2.1ポイント高く、全国平均より0.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 51.5%で、昨年度より1.6ポイント高く、全国平均より2.3ポイント低い。

### ③ 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校6年生 77.8%で、昨年度より10.8ポイント高く、全国平均より0.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 77.6%で、昨年度より13.5ポイント高く、全国平均より1.3ポイント高い。

授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて、話し合う学習活動に取り組んでいる割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。自分の考えを文章や話しを組み立てを工夫して発表している割合は、小学校6年生は全国平均を上回り、中学校3年生は下回っています。各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、子どもたちが、主体的に考え、判断し、表現する活動を意図的に設定し、授業改善を積極的に推進する必要があります。

## 2 「学校質問紙」

### (1) 学習規律

#### ① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

- ・小学校6年生 76.5%で、昨年度より1.3ポイント低く、全国平均より36.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より42.0ポイント高い。

#### ② 「学習規律の徹底をよく行った」

- ・小学校6年生 94.1%で、昨年度より10.8ポイント高く、全国平均より32.3ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度より25.0ポイント高く、全国平均より31.7ポイント高い。

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っています。学習規律の徹底を図る割合も全国平均を大きく上回っています。各学校における私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律が、丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

### (2) ボランティア等による学習サポート

#### ① ボランティア等による学習サポートを「よく行った」、「どちらかといえば行った」

- ・小学校6年生 64.7%で、昨年度より24.2ポイント低く、全国平均より15.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度より25.0ポイント高く、全国平均より67.0ポイント高い。

江別市の全小・中学校に、退職教員などの教員免許を持つ学習サポート教員を配置し、複数の教員が指導するティーム・ティーチングや長期休業中・放課後に補充的な学習を行い、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。実施している学校の割合は全国平均を大きく上回っています。

### (3) 家庭学習の課題(宿題)

#### ① 前年度までに、算数・数学の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校6年生 100%で、昨年度より11.1ポイント高く、全国平均より16.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 75.0%で、昨年度と同様であり、全国平均より21.8ポイント高い。

#### ② 前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた(国語/算数・数学共通)

- ・小学校6年生 82.4%で、昨年度より0.9ポイント低く、全国平均より42.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.5%で、昨年度より12.5ポイント高く、全国平均より55.5ポイント高い。

算数・数学の宿題をよく与える割合は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。各小・中学校では、学習内容を確実に定着させるために、家庭での学習方法を具体的に指導し家庭における学習の習慣化を図る取り組みが推進されています。

### (4) ICTを活用した授業

#### ① 前年度、大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを1クラスあたり週1回以上授業で活用した

- ・小学校6年生 100%で、全国平均より27.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、全国平均より25.2ポイント高い。

パソコンや電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、すべての学級に電子黒板を設置するなど、ICTを活用した授業を積極的に推進しています。

### (5) 理科の授業

#### ① 前年度、自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てる指導を「よく行った」、「どちらかといえば行った」

- ・小学校6年生 94.1%で、全国平均より7.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、全国平均より27.0ポイント高い。

理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の「計画を立てている」割合が、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回り、前年度、自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てる指導を行った割合も小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。理科の授業では、実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにする指導が推進されています。

### (6) 地域や社会に関する学習活動

#### ① 前年度、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を「よく行った」、「どちらかといえば行った」

- ・小学校6年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より13.8ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.5%で、昨年度より12.5ポイント高く、全国平均より7.7ポイント高い。

前年度、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行った割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。江別市の歴史、文化、地理的環境、自然環境、公共施設等の地域の特色を生かした自然体験や社会体験などの学習活動が積極的に行われています。

#### 参考引用文献

平成30年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

平成30年度全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省国立教育政策研究所)